HONDA
汎 用 製 品

歩行型芝刈機

UM660

取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申し付けください。

取扱説明書について

この取扱説明書は
—草刈り作業をするときは、必ず携帯してください。
—本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
—紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

LEMA

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた草刈機で安全かつ能率的な草刈り作業する手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の指示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4
安全ラベル …… 8
サービスと保証について …… 10
各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 11
エンジン回転調整レバー …… 13
刈刃クラッチ　レバー …… 13
走行クラッチ　レバー …… 14
燃料コック　レバー …… 14
変速レバー …… 15
ローリング　レバー …… 15
刈取り高さ調整ピン …… 16
ハンドル高さ調整ボルト …… 17
作業前に点検、調整しましょう …… 18
作業前の点検 …… 18
燃料の点検 …… 19
エンジンオイルの点検 …… 21
エア　クリーナ（空気清浄器）の点検 …… 23
刈刃の点検 …… 24
リヤ　プロテクタ、リヤ　プロテクタ　ラバー、
サイド　プロテクタ　ラバーの点検 …… 26
各部の清掃 …… 27
エンジンのかけかたととめかた …… 28
エンジンのかけかた …… 28
エンジンのとめかた …… 31
運転操作のしかた …… 32
1．ハンドル高さ調整 …… 32
2．エンジン始動 …… 33
3．運転操作 …… 33
4．刈取り作業 …… 38
草刈機のとめかた …… 44

定期点検を行いましょう……46
　定期点検表……46
点検・整備のしかた……47
　エンジン　オイルの交換……47
　エア　クリーナ（空気清浄器）の清掃・交換……49
　点火プラグの点検・調整・交換……50
長期間使用しないときの手入れ……52
車への積み降ろしのしかた……55
故障のときは……57
主要諸元……58

⚠警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作になれ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは誰にも本機を使用させないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な操作状態にしておいてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- 燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意し、給油限界レベルを超えないように補給してください。燃料給油キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。

⚠警告

・誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
・防護装置（サイド　プロテクタ　ラバー、リヤ　プロテクタ　ラバー、リヤ　プロテクタ、ベルト　カバー）は正しく取付けられているか確認してから作業してください。
・衣類や頭髪、手ぬぐいなどが巻き込まれないよう作業に適した服装をし、防護メガネ、手袋、ひざ下まである長靴などを用いて作業してください。
・夜間や悪天候などで視界の悪いときは作業しないでください。事故の危険性が高くなります。
・放出物や衝突による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れなどすべての異物を取除いてくださ い。取除けない場所では使用しないでください。また境界線や測量用の杭などのある位置を確認し熟知しておいてください。
・本機を使用する前に必ず刈刃を点検してください。刈刃が摩耗、損傷していると破片によって大ケガをすることがあります。点検は必ず厚手の手袋を着用してください。
・本機は草刈り以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
・作業にはいる前に境界表示を行い安全区域内で作業してくださ い。傾斜や崖により暴走や転倒のおそれがあります。
・草が濡れていたり、雨天のときは草刈り作業をしないでください。転倒の危険が増します。

●作業中

・エンジンがかかっているときは、手や足を刈刃カバーの上におかないでください。刈刃は鋭くとがっていて高速で回転しています。誤って接触すると大ケガをします。
・草刈り作業範囲内に石などの異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。（特にカッタハウジング前方）

⚠警告

- 作業範囲内に人や動物、車などを近づけないでください。もし人や動物、車などが近づいたら作業を停止してください。また作業している周辺に人家や車などがある場合は、防護シートなどでおおってから作業を行ってください。防護処置ができない場合は使用しないでください。
- 作業中はハンドルをしっかり持ち足元に注意して行ってください。刈取った草は滑りやすく転倒するおそれがあるので、走らず本機の速度に合わせて作業してください。
- 移動、方向転換するときは刈刃を停止させ、走行クラッチ　レバーのみ使用して行ってください。刈刃が回転していると異物などの飛び出しにより大ケガをするおそれがあります。
- 刈刃カバー内に刈取った草が詰まったときは、速やかに刈刃を停止させ、草の除去が安全に行える場所に本機を移動してください。移動後エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外し、厚手の手袋を着用して草の除去作業をしてください。
- エンジン運転中は刈取り高さの調整をしないでください。誤ってレバーを操作されると本機が動き出し大ケガをするおそれがあります。
- 斜面での作業は行わないでください。本機は斜面では安定せず転倒するおそれがあります。
- 作業中障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するため点火プラグ　キャップを外し（50頁参照）、損傷の有無を調べてください。損傷があった場合、修理しないで再作業を始めると、部品が飛び出すなどして大ケガをするおそれがあります。
- 過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず途中休憩を取ってください。

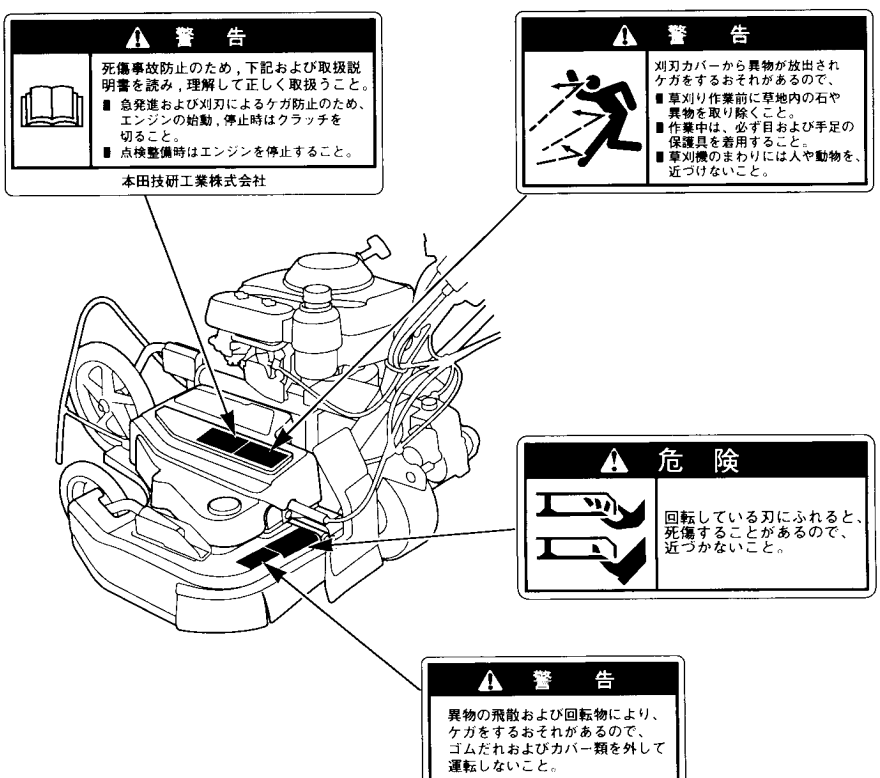
⚠警告

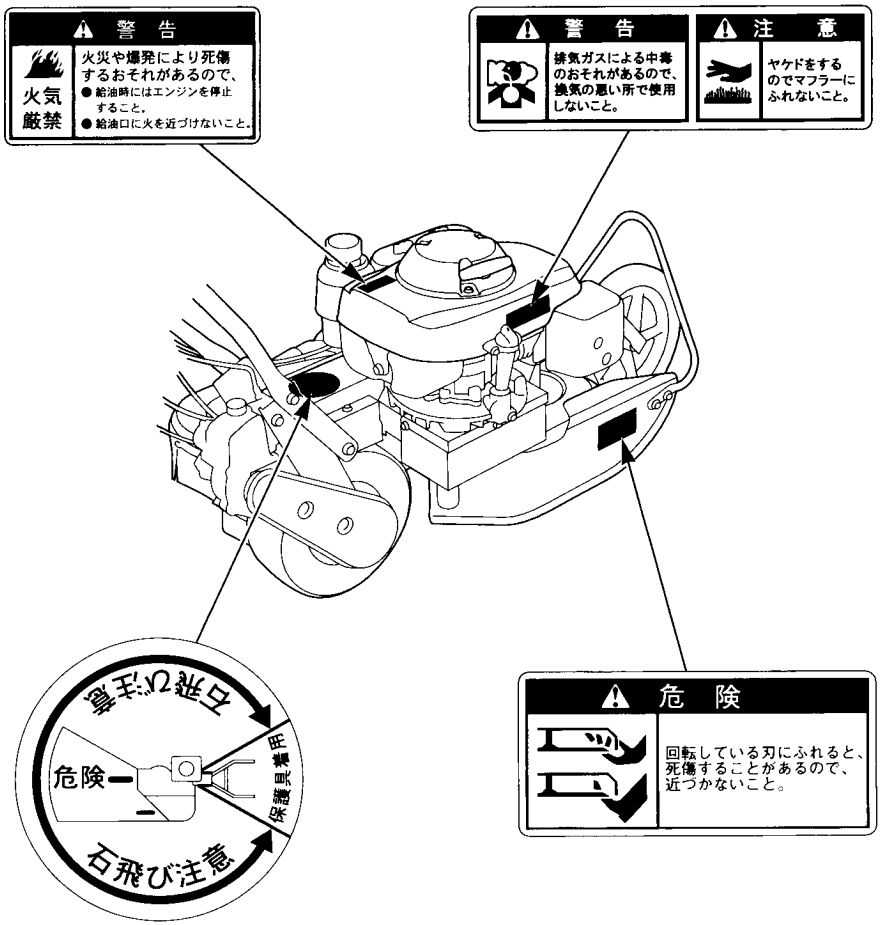
●作業が終わったら

・作業が終わり、本機を移動する場合は刈刃を停止させ、刈取り高さの調整が行える安全な場所に移動し、エンジンを停止してから刈取り高さを最も高い位置にしてください。
・本機から離れるときや保管時はエンジンを停止し本機の転倒防止のため、平坦な場所でローリング　レバーを必ず“固定”の位置にしてください。
・各部の点検・調整・清掃などのときはエンジンを停止し、各部が十分冷えてから行ってください。
・長期保管前には、燃料タンク内の燃料を抜取り、本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく、火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。
・車への積み降ろしをするときは、必ずアユミ板を使用してゆっくり行ってください。転倒、落下によりケガをするおそれがあります。
・運搬時には転倒、落下しないように本機を確実に固定してください。また燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。

●安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。




⚠ 警 告
火気厳禁
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
● 給油時にはエンジンを停止すること。
● 給油口に火を近づけないこと。
⚠ 警 告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。
⚠ 注 意
ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。
⚠ 危 険
回転している刃にふれると、死傷することがあるので、近づかないこと。
石飛び注意
危険
保護具着用
石飛び注意

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不審な点、またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は、商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。



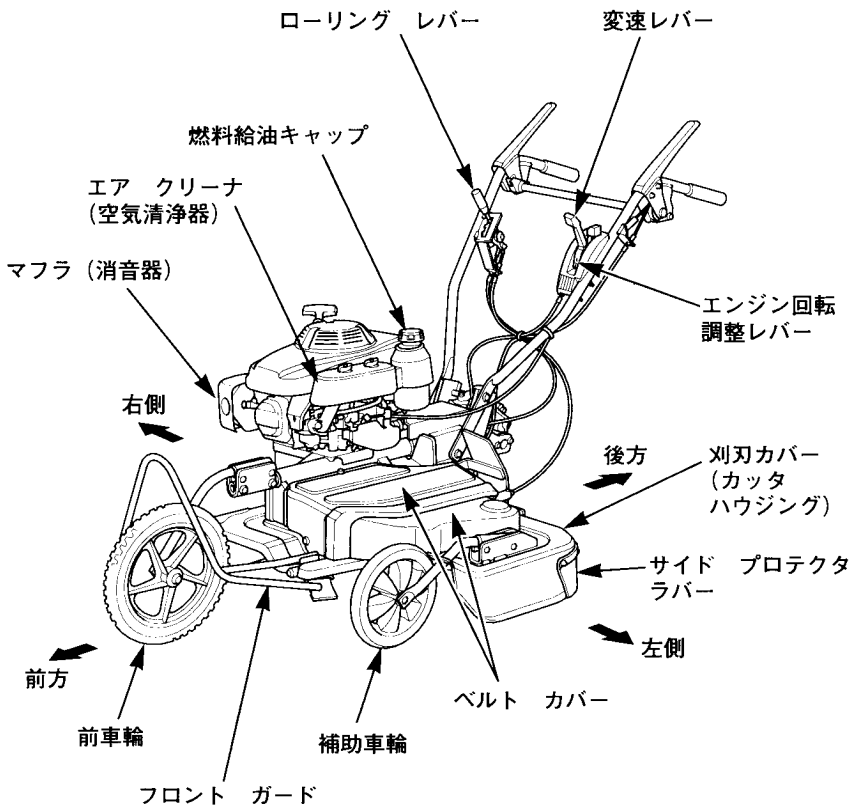
※フレーム号機および銘板の表示
位置は12頁をご覧ください。

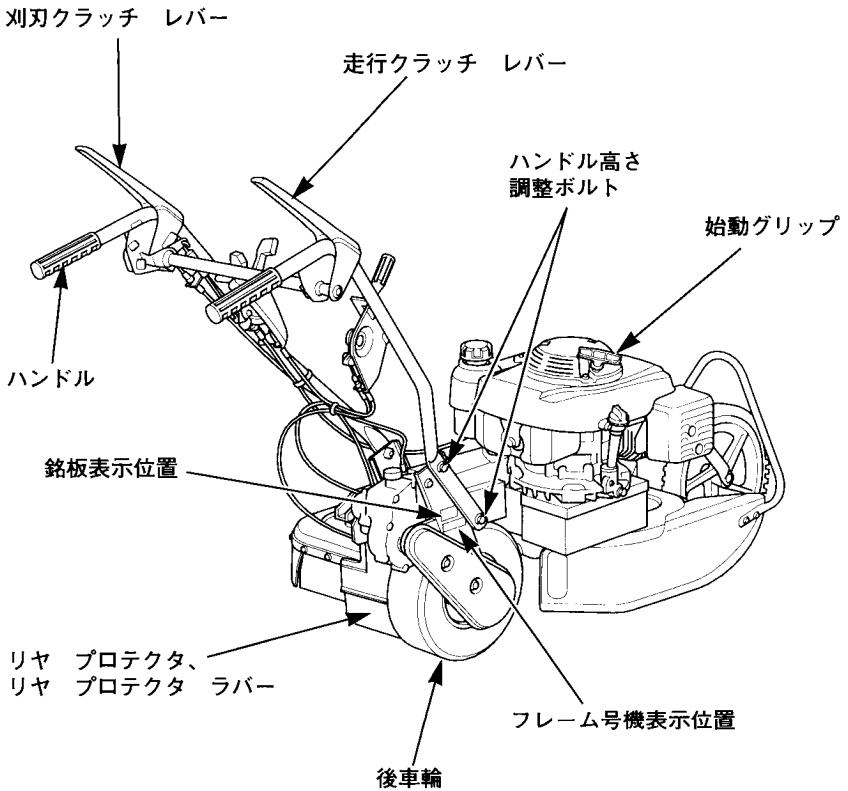
Hondaが認めていない改造や仕様の限度を越える使用は、保証の対象外になるのでご注意ください。
（詳細は保証書をご覧ください。）

認定番号
安全鑑定適合番号が必要な場合は、下記の番号をご使用ください。

安全鑑定型式名	安全鑑定適合番号
ホンダUM660	21022

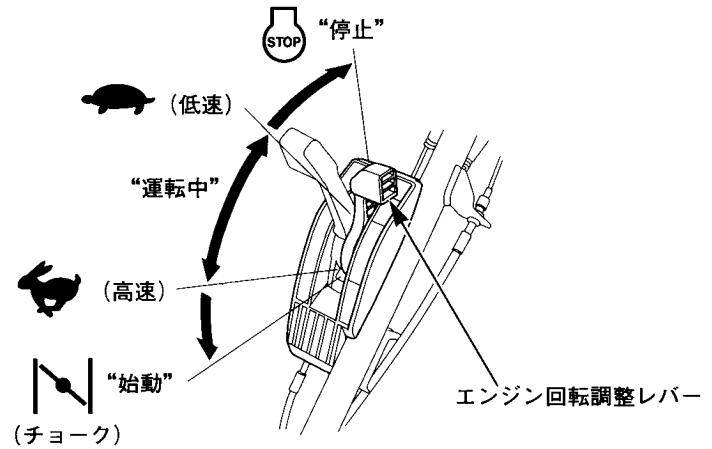
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




刈刃クラッチ　レバー
走行クラッチ　レバー
ハンドル高さ
調整ボルト
始動グリップ
ハンドル
銘板表示位置
リヤ　プロテクタ、
リヤ　プロテクタ　ラバー
フレーム号機表示位置
後車輪

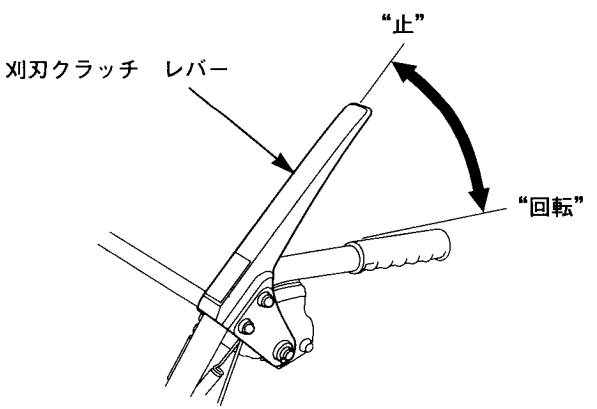
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。
エンジン始動時、運転中、停止時に操作します。



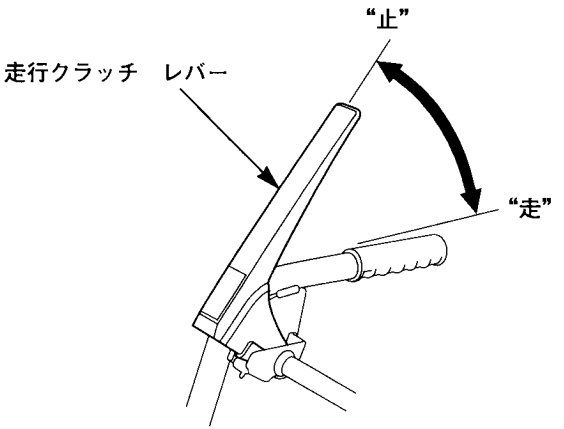
刈刃クラッチ　レバー

刈刃クラッチ　レバーを握ると刈刃が回転し、レバーをはなすと刈刃は止まります。



走行クラッチ　レバー

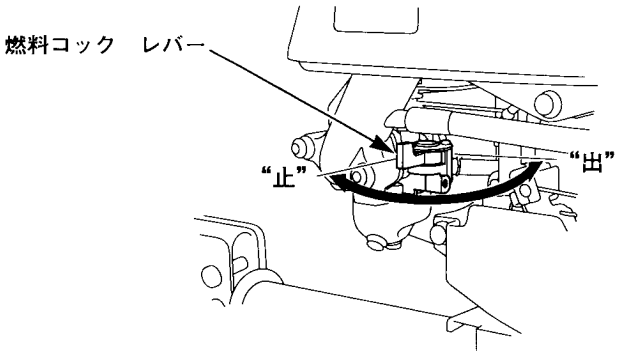
走行クラッチ　レバーを握ると走行し、レバーをはなすと止まります。



刈刃クラッチ　レバーと走行クラッチ　レバーには、連動機構が装備されています。(37頁参照)

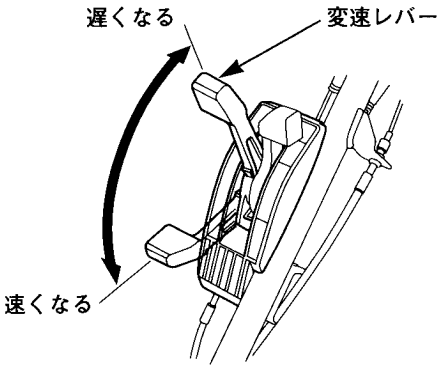
燃料コック　レバー

燃料タンクからキャブレータまでの燃料通路を開閉するときに操作します。操作は確実に**"出"**、**"止"**の位置に合わせてください。



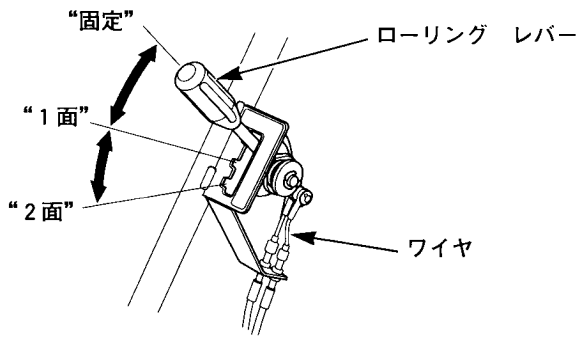
変速レバー

走行速度を変えるときに操作します。
作業内容に応じた適切な走行速度に調整（無段変速）してください。
(36頁を参照)



ローリング　レバー

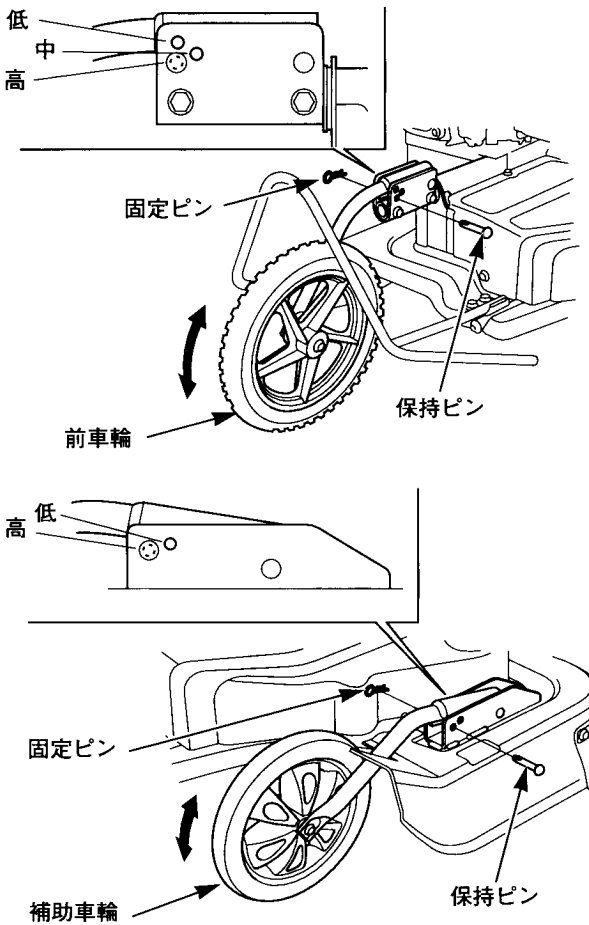
作業条件に合わせ、刈取り部分を傾斜させるときに操作します。
ローリング角度は3段階“**固定**”、“**1面**”、“**2面**”に設定できます。
(33、34頁参照)



ローリング角度を設定するときは、ローリング　レバーを任意の位置にしたあと本機を軽く左右に振るとセットできます。
2本のワイヤにたるみがあるとセットされていないのでもう一度セットし直してください。

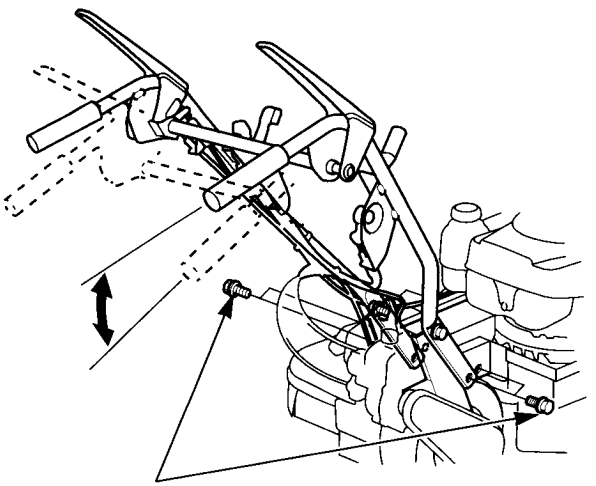
刈取り高さ調整ピン

刈取り高さを調整するときに操作します。
車輪の保持ピンの位置を変えることにより、前車輪側は3段階に、補助車輪側は2段階に調整できます。(38、39頁参照)



ハンドル高さ調整ボルト

ハンドル高さを調整するときに操作します。
ハンドル高さ調整ボルトの位置を変えることにより、作業者に合わせハンドル高さを２段階に調整できます。(32頁参照)



ハンドル高さ調整ボルト

作業前に点検、調整しましょう

⚠警告

- 点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと本機を損傷するばかりでなくあなたや、あなたのまわりの人に大ケガをさせるおそれがあります。
- 点検整備や保管時には、燃料漏れを防ぐために燃料コック　レバーを“止”の位置に合わせてください。漏れた燃料が引火することがあります。

●作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり ……燃料の量（19頁参照）、エンジン　オイルの量（21頁参照）は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジンまわりにゴミ、枯れ草などはないですか。
- レバーの作動 ……引っかかりはなく、スムーズに作動しますか。
  刈刃クラッチ　レバーと走行クラッチ　レバーの連動は確実に行えますか。（37頁参照）
- 各部の締付け ……ハンドル高さ調整ボルトにゆるみはないですか。
  そのほかのボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類 …被覆のやぶれや切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止 ……エンジンの始動時、回転中に異音はないですか。
  エンジン回転調整レバー“STOP”（停止）位置で確実に停止しますか。
- 刈刃の点検 ……刈刃の締付けボルトのゆるみ、刈刃の摩耗、割れ、曲がりはないですか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

●燃料の点検

⚠警告

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

燃料を補給するときは

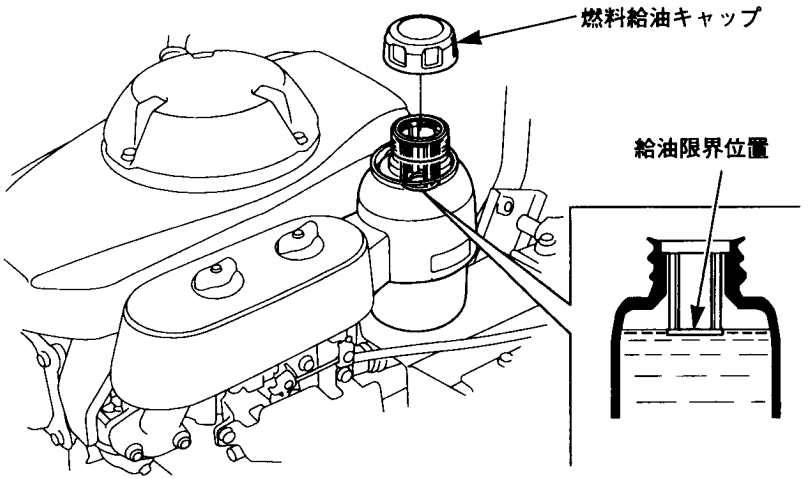
- エンジンを停止してください。
- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で補給してください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。

  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。

  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 燃料はこぼさないように補給してください。万一こばれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは火災と環境に注意して処分してください。
- 燃料は口元まで入れず所定のレベルを超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内の燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

点検

燃料給油キャップを外し、注入口のレベル（給油限界位置）まで燃料があるか点検します。少ない場合は補給します。



補給

使用燃料：無鉛レギュラー　ガソリン

- 燃料給油キャップを外し、注入口のレベル（給油限界位置）を超えないように燃料を補給します。レベルより上まで補給すると、燃料が漏れることがあります。
- 給油後、キャップを確実に締付けてください。

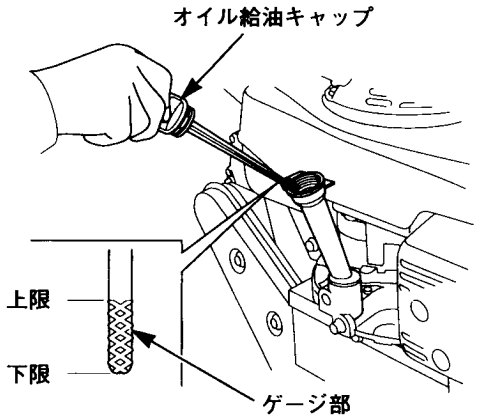
取扱いのポイント

・必ず無鉛レギュラー　ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
・ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

●エンジン オイルの点検

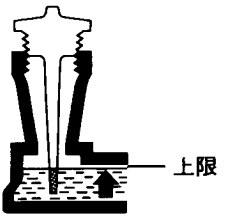
点検

オイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずに、キャップのネジの部分が給油口にあたった位置でキャップを抜取り、オイル量を確認してください。
液面が下限を下まわっているときは、上限以内までオイルを補給してください。汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は47頁参照)



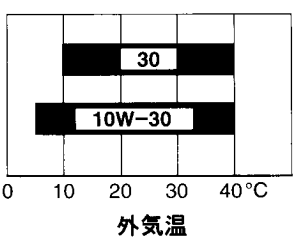
補給

● オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限以内まで補給します。



● 推奨オイル：（4サイクル ガソリン エンジン オイル）
Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

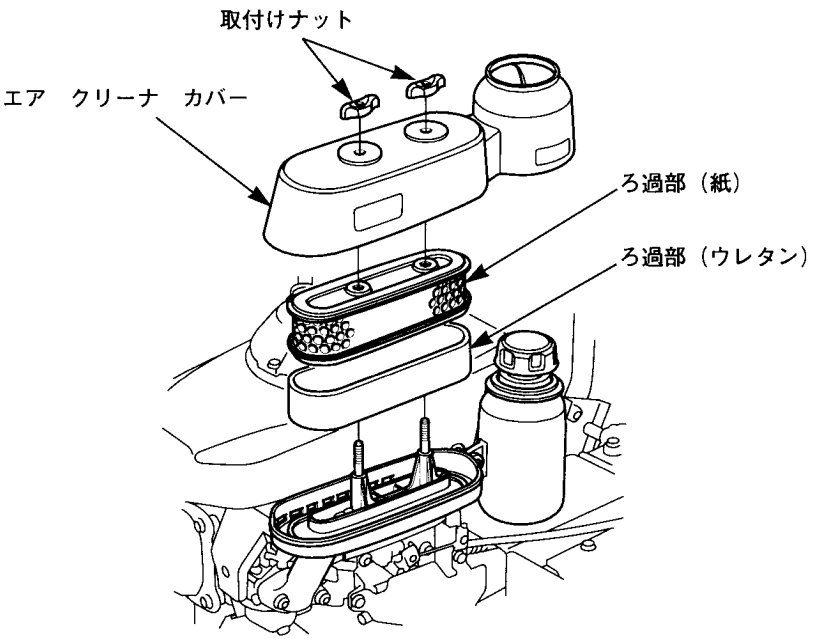
●エア　クリーナ（空気清浄器）の点検

点検

1．取付けナットを外し、エア　クリーナ　カバーを外します。
2．ろ過部（ウレタン、紙）の汚れを点検します。
3．汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。（49頁参照）

取扱いのポイント

・エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
・エア　クリーナ　カバーやろ過部（ウレタン）を装着しなかったり、取付けかたが悪いとホコリなどが入り、エンジンに悪影響を与える原因になります。



●刈刃の点検

⚠警告

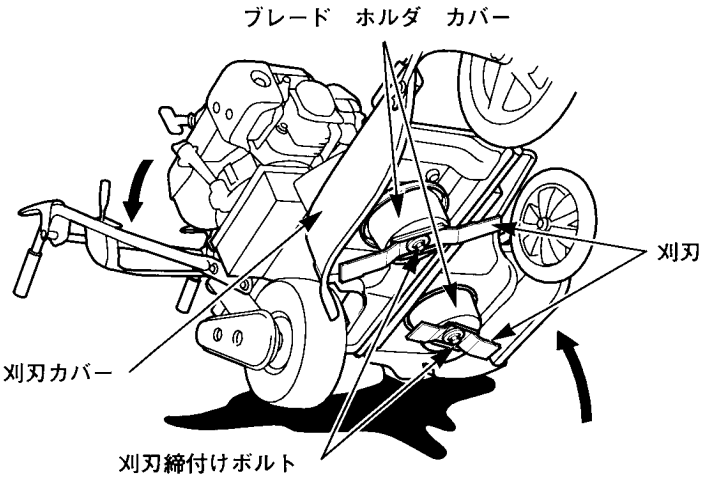
- 作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。刈刃のゆるみ、摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たるなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。
  作業中異物などに当たると刈刃だけでなく他の部品が損傷しているおそれがあります。交換するときはお買いあげ販売店にご相談ください。
- 刈刃の点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグ　キャップを外してから厚手の手袋を着用して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。
- 刈刃の点検は、一人で行わず必ず二人で行ってください。ハンドルをしっかり支えてもらい前部が落下しないようにしてください。前部が落下すると本機の下敷きになりケガをするおそれがあります。

1．エンジンを停止し、点火プラグ キャップを外します。(50頁参照)
2．ローリング　レバーを**“固定”**の位置にします。(45頁参照)
3．燃料コック　レバーを**“止”**にします。(45頁参照)
4．本機を後側へ傾斜させハンドルを地面に接地させた状態で刈刃および刈刃カバー内を清掃し、点検してください。

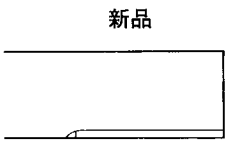
取扱いのポイント

傾斜させたまま放置しないでください。始動性が悪くなることがあります。

☆ブレード　ホルダ　カバー内の清掃は、適切な工具と整備技術を必要としますのでお買いあげ販売店にお申しつけください。

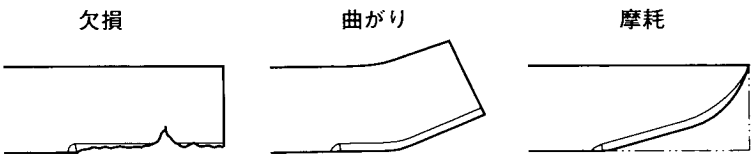


5．刈刃の締付けを確認してください。
6．刈刃の欠損、曲がり、摩耗を点検します。



⚠警告

下図のように異常な状態になっていたらお買いあげ販売店で交換してください。そのままの状態で使用すると刈刃が折損し人身事故を招くおそれがあります。

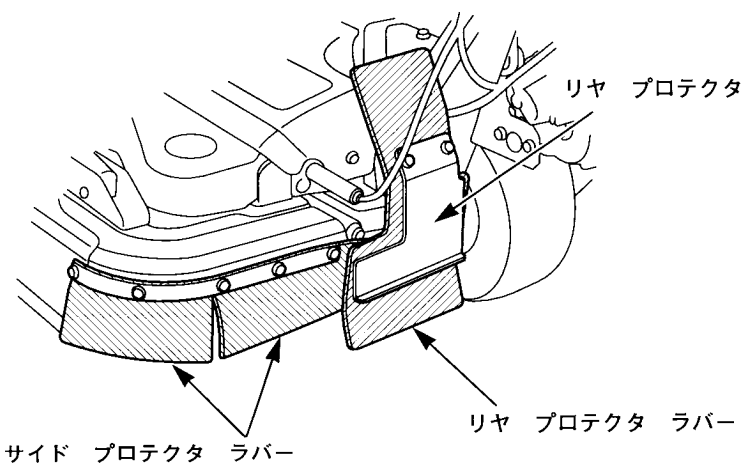


●リヤ　プロテクタ、リヤ　プロテクタ　ラバー、サイド　プロテクタ　ラバーの点検

ラバーに損傷（深い傷や欠け等）がなく正しく取付けられているかどうか点検してください。
損傷しているときは交換してください。

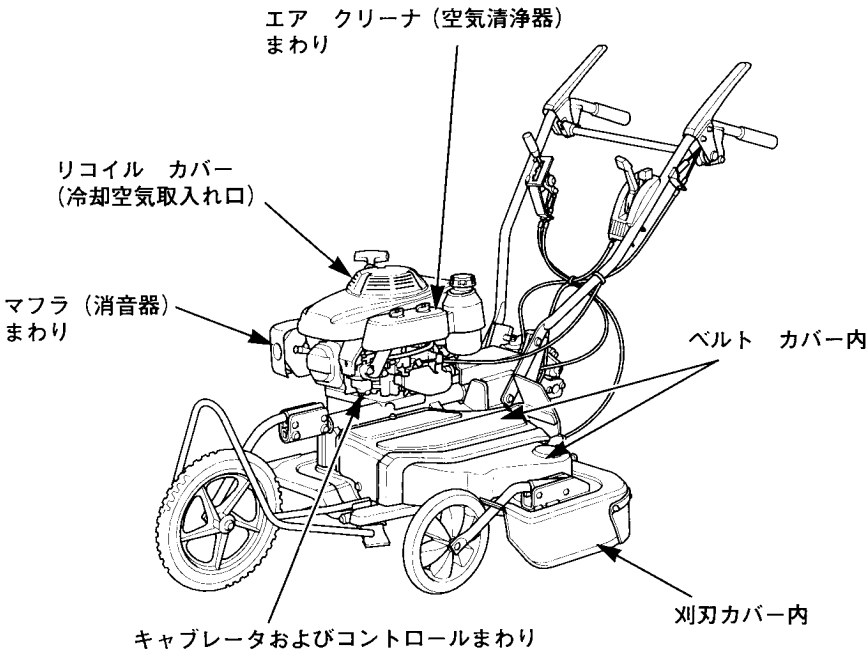
⚠警告

プロテクタ類を取外したままで刈取り作業しないでください。また損傷したままでの作業もしないでください。刈刃の回転力により石飛びなどが発生し重大な事故を起こすおそれがあります。



●各部の清掃

本機（特に下記指定箇所）に刈った草やホコリが付着していないか確認し、汚れているときには十分清掃してください。



取扱いのポイント

清掃をするときキャブレータ、エア　クリーナ、マフラ排気口に水をかけないでください。エンジン不調の原因となります。

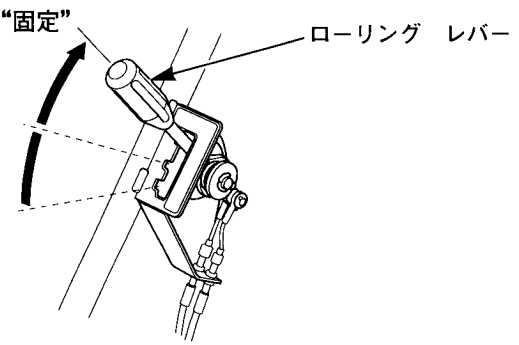
エンジンのかけかたととめかた

⚠警告

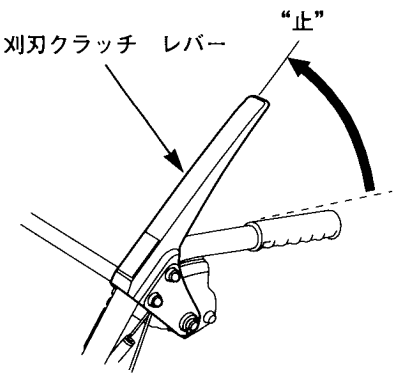
屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

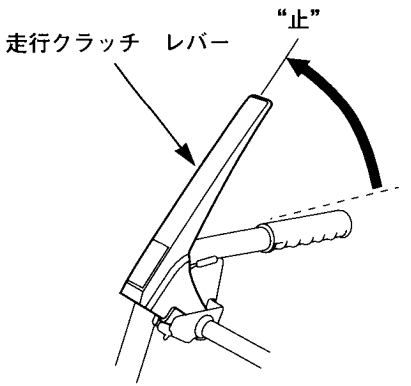
●エンジンのかけかた

1．ローリング　レバーを**“固定”**の位置にします。
このとき1面と2面のローリング　ストッパーがそれぞれ確実にセットされていることを確認してください。(33頁参照)

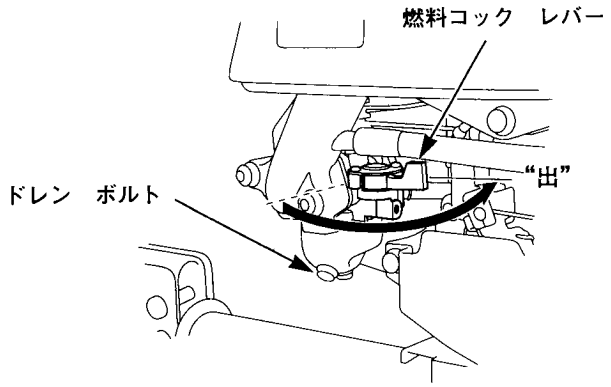


2．走行クラッチ　レバーと刈刃クラッチ　レバーから手をはなし、**“止”**の位置になっていることを確認してください。





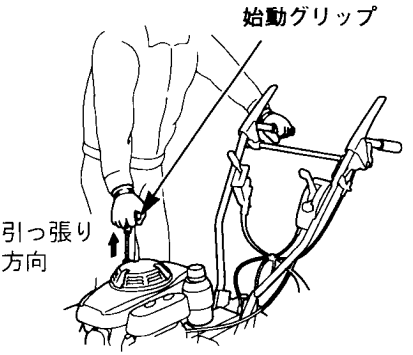
3．ドレン　ボルトが確実に締まっていることを確認し、燃料コックレバーを**“出”**に合わせます。



4．エンジン回転調整レバーを“”（チョーク）の位置に合わせます。
エンジンが暖まっているとき、または気温が高いときには“”（高速）の位置に合わせます。

5. 始動グリップを引き重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。

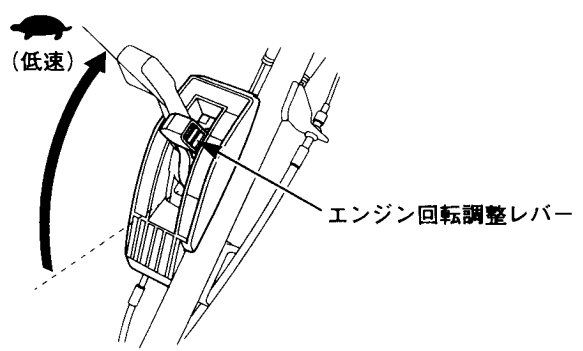
- エンジンの始動は、本機が安定する平坦な場所で行なってください。
- 始動グリップを引くとき、引っ張る方向に人がいないか確認してください。
- 本機が転倒しないように片手でハンドルを支えてください。



取扱いのポイント

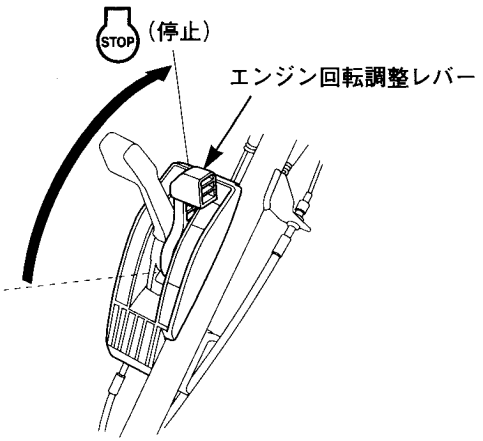
始動グリップを引き上げた位置から手を放さないください。グリップやまわりの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

6. 2～3分間暖機運転を行います。
“チョーク”の位置で始動したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら**“🐢”**（低速）の位置に合わせます。

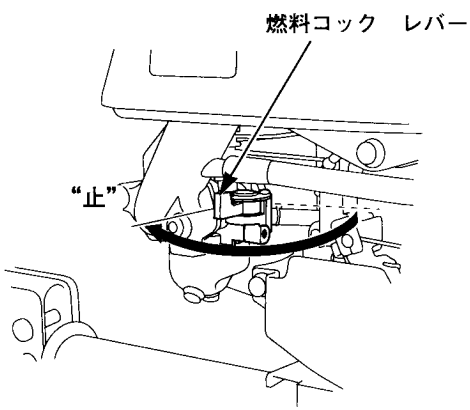


●エンジンのとめかた

1．走行クラッチ　レバー、刈刃クラッチ　レバーを解除し、エンジン回転調整レバーを“ STOP ”（停止）にします。



2．燃料コック　レバーを**“止”**の位置にします。



運転操作のしかた

草刈り作業をする前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう」の項目を良くお読みになり草刈り作業にとりかかってください。

取扱いのポイント

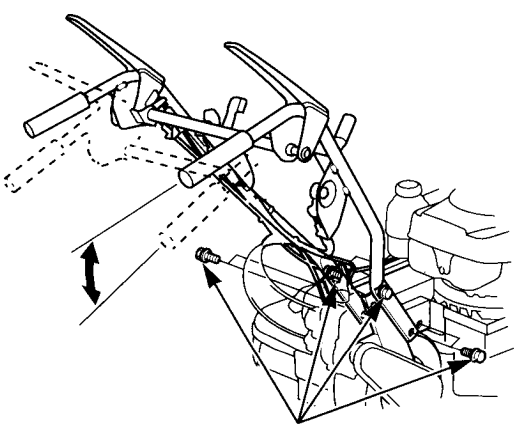
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

1 ハンドル高さ調整

ハンドル高さは2段階に調整することができます。運転者に合わせて調整してください。

調整はハンドル高さ調整ボルト4本を使って行います。

・上側のボルト2本をゆるめ、下側のボルト2本を上または下に入れ替えることによって調整します。



ハンドル高さ調整ボルト

調整後は調整ボルトを確実に締付けてください。

2 エンジン始動

「エンジンのかけかた」に従ってエンジンを始動します。(28頁参照)

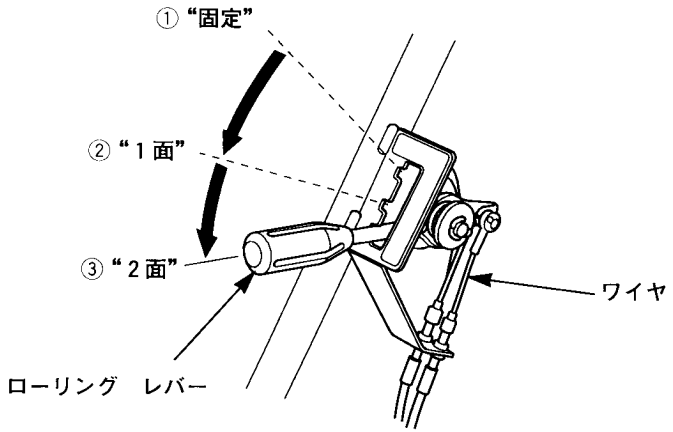
3 運転操作

⚠警告

ローリング　レバーを操作するときは、走行クラッチ　レバーから手をはなし、本機を停止させハンドルを支えながら行ってください。レバーを操作することによって本機が傾く構造になっているため転倒するおそれがあります。

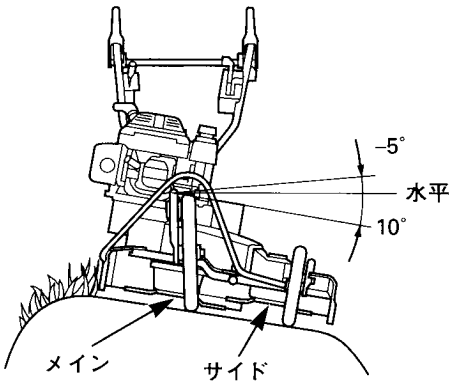
1．ローリング　レバー

ローリング　レバーを作業に合わせ①、②または③の位置にします。本機を左右に軽く振ってそれぞれの位置でローリング　ストッパー(本機内部に装備)が確実にセットされているか、確認してください。2本のワイヤにたるみがあるとローリング　ストッパーはセットされていません。セットし直してください。

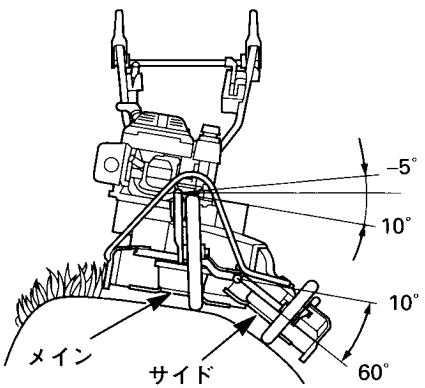


・① **“固定”**…駐車時、本機移動時、Uターン時使用
（約-5°の位置で固定）

・② **“1面”**…平面作業時使用
（約-5°～10°の間でメイン、サイドが同時にローリング）



・③ **“2面”**…傾斜部分の作業時使用
（メインは約-5°～10°の間でローリング、サイドはメインに対して約10°～60°の間でスイング）

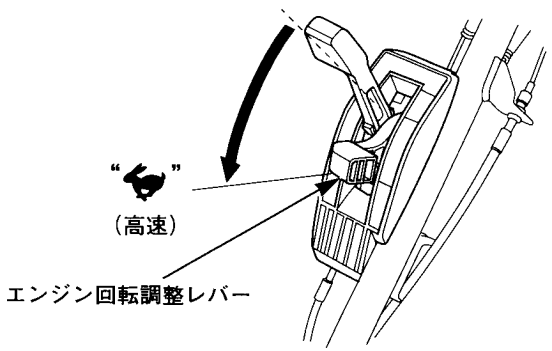


⚠警告

急発進による事故や、刈刃によるケガなどを防ぐため、周囲の安全に十分注意してレバー操作を行ってください。

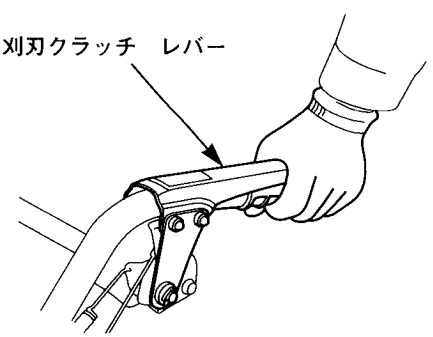
2．エンジン回転調整レバー

変速レバーが**“低”**（低速）の位置にあることを確認し、エンジン回転調整レバーを**“🐇”**（高速）にします。



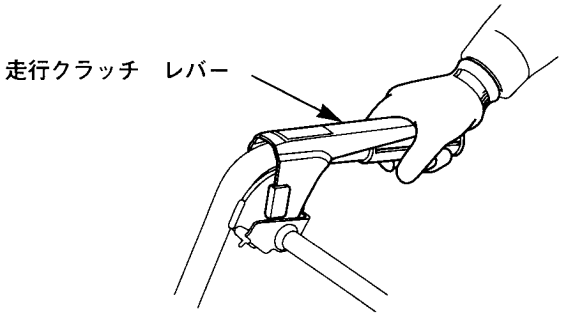
3．刈刃クラッチ　レバー

刈刃クラッチ　レバーを握り刈刃を回転させます。



4．走行クラッチ　レバー

走行クラッチ　レバーを握ります。



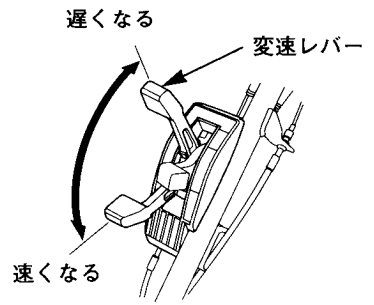
5．変速レバー

刈刃クラッチ　レバーから手をはなし、作業内容に合わせて変速レバーを調整して車速を設定します。

変速調整	適　応　作　業
遅く～	草刈り(狭い場所、長い草等)、移動、トラックへの積み降ろし
～速く	草刈り(平坦な広い場所)、移動

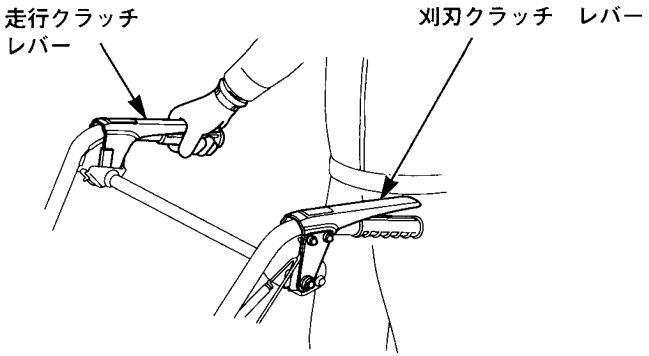
取扱いのポイント

走行中変速することができます。作業内容に合わせて変速レバーを調整してください。(刈刃クラッチ　レバーから手を放しても走行クラッチ　レバーと連動しているため、作業を中断することなく車速を変えることができます。)

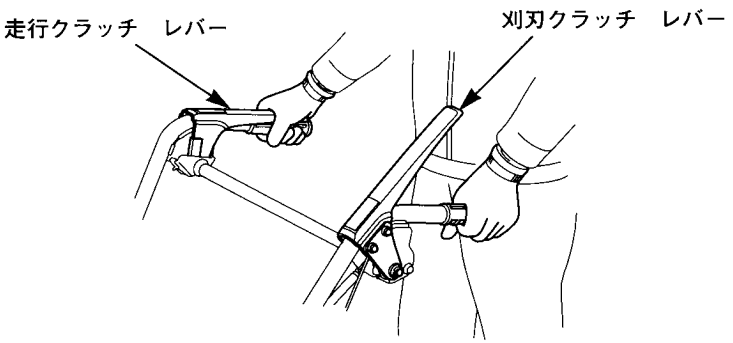


刈刃クラッチ　レバーと走行クラッチ　レバーの連動手順

1．刈刃クラッチ　レバーを握りながら次に走行クラッチ　レバーを握ります。
2．刈刃クラッチ　レバーを放しても、刈刃クラッチ　レバーは固定され､草刈りと走行ができます｡この状態から走行クラッチ　レバーを放せば、刈刃の回転が止まり本機が停止します。

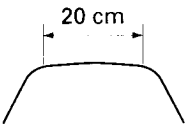


・草刈り作業のときは、刈刃クラッチ　レバーを先に操作してください。
・移動のときは、走行クラッチ　レバーのみを使用してください。



4 刈取り作業

⚠警告



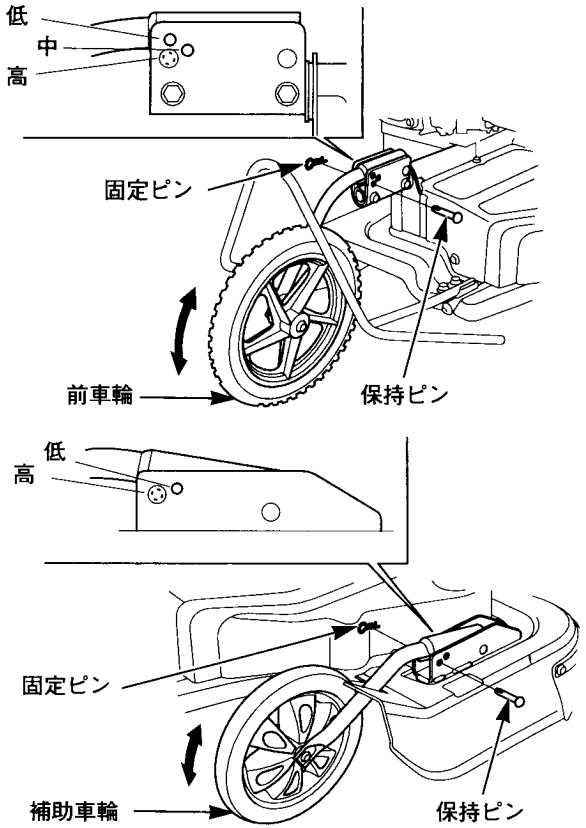
- 刈取り作業は天場（畦の上面の幅）が20 cm以上の所で行ってください。狭い所で作業すると転倒、落下などを引き起こすおそれがあります。
- 畦には境界線や測量用の杭を打ち込んでいることがあります。あらかじめ位置を確認し、刈取り作業時にはその場所をさけてください。作業中にぶつかると重大な事故の原因となります。

1．刈取り高さの調整

⚠警告

- 刈取り高さの調整をするときは、エンジンを停止し、各部の回転が止まっていることを確認してください。また誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを外して行ってください。
- 前車輪側の調整はフロント　ガードを持ち上げて行ってください。前車輪が地面に接地している状態で調整すると、本機の重みで下がりケガをするおそれがあります。
- 補助車輪側の調整は左側ハンドルを支えながら行ってください。補助車輪が地面に接地している状態で調整すると、本機の重みで下がりケガをするおそれがあります。

・刈取り高さの調整は、保持ピンの位置を変えることにより、前車輪側を3段階（30 mm、45 mm、60 mm）に調整できます。
補助車輪側は前車輪側の刈取り高さに対して2段階に調整できます。
刈取り高さの組合わせは次頁の表を参考に行ってください。
※調整後、固定ピンを保持ピンに確実に取付けてください。



刈取り高さピン位置

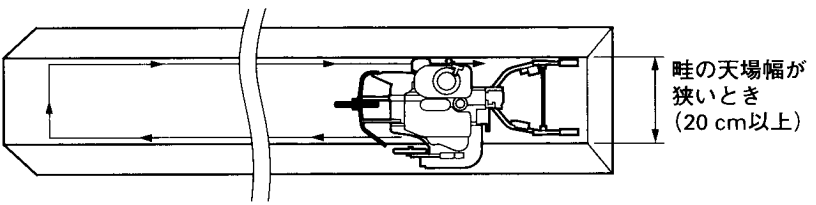
ピン位置		前車輪		
		低	中	高
補助車輪	低	○	○	○
	高			○

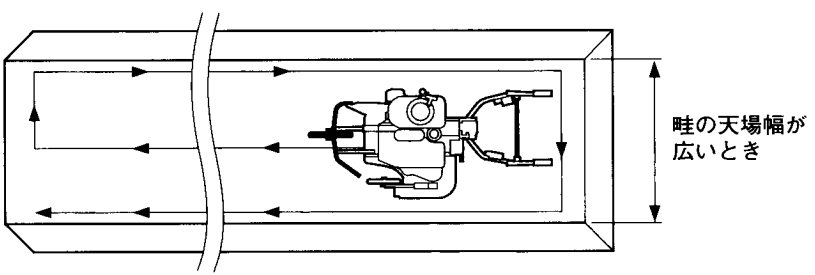
▶ 安定性が悪くなるおそれがあるのでこのピン位置で作業しないでください。

2．刈取りパターン

刈取り作業はエンジン回転を落とさずに行うことが重要です。下記の要領を参考にして、草の種類、草地条件に適した刈りかたをしてください。

刈取った草は本機右側に飛散することがあります。本機を右側に寄せすぎると草が水田にはいることがありますので、下記刈り方をおすすめします。



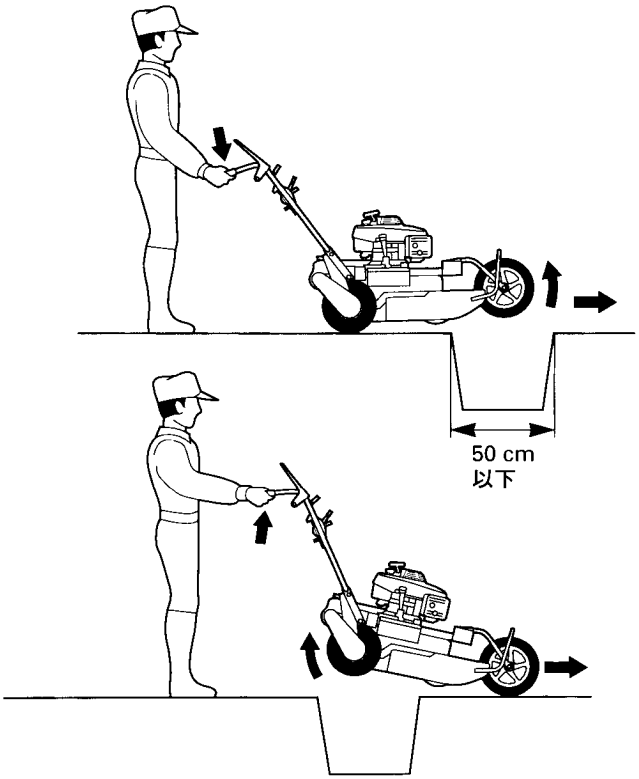


3．取水口の通過

取水口を通過するときは刈刃クラッチ　レバーと走行クラッチ　レバーから手を放し、ローリング　レバーを**“固定”**位置にし1面と2面それぞれのローリング　ストッパーがセットされていることを確認します。(33頁参照) 次に手押しで前輪を持ち上げ移動し、次に後輪を持ち上げ通過してください。

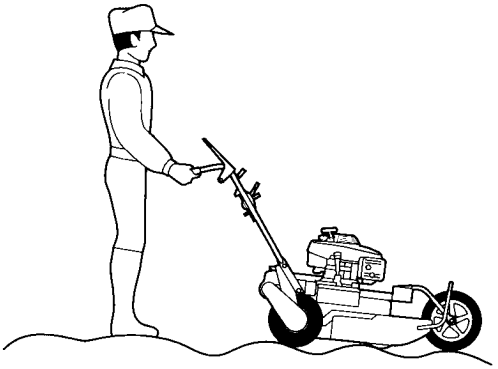
取扱いのポイント

取水口の幅が広いと本機が落下するおそれがあります。取水口の幅は50 cm以下の所を通過してください。



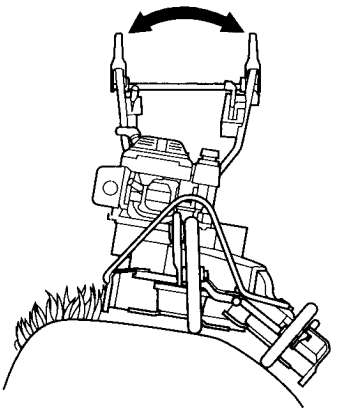
4．起伏

起伏の多い所での草刈りは十分に速度を落として刈取り高さを高くし、足もとに注意してハンドルをしっかりと握り作業してください。



5．狭い場所での走行要領

畦などの狭い場所で作業していると、本機が左右に取られることがあります。その場合に直進性を得るためにハンドルを軽く振り、修正しながら走行してください。



● **軟らかい密生した草等でエンジン回転が下がるときはには、次のいずれかの方法により作業を行ってください。**

・走行を停止し、エンジン回転の回復後、再度作業を行う。
・エンジン回転が低下しない車速で作業を行う。
・草の条件に応じて刈幅を狭めます
・刈取り高さを高くします。

● **つる草や異物（布、ロープ、針金など）の巻付きなどでエンジン回転が下がるときは、次の作業を行ってください。**

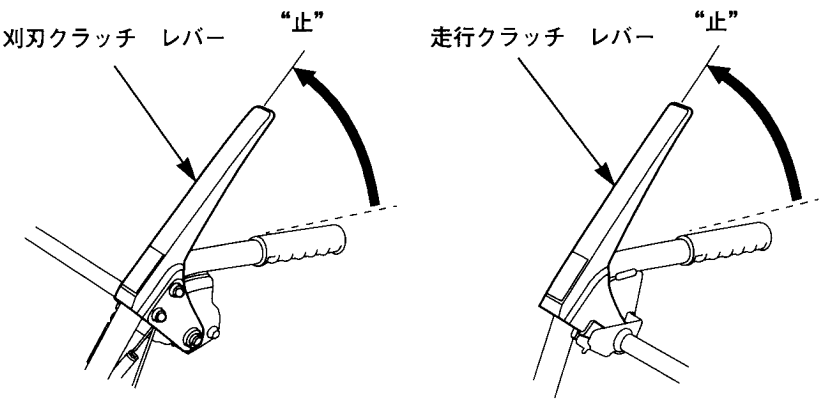
・直ちに走行を停止し、エンジンを止めてください。
・各部の回転が停止していることを確認し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを外します。
・車輪や刈刃カバー内に巻付いたつる草や異物は厚手の手袋を着用し、刈刃等でケガをしないように十分注意して取除いてください。
・つる草や異物を取除いた後作業に入る前に、本機の損傷の有無を点検してください。異常があった場合はお買いあげ販売店にお申し付けください。

取扱いのポイント

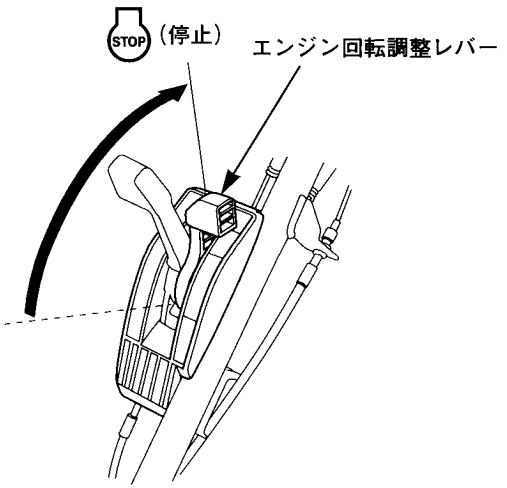
つる草や異物が巻付いたまま走行を続けると、トランスミッションおよびベアリングやベルト等を破損する原因となります。

草刈機のとめかた

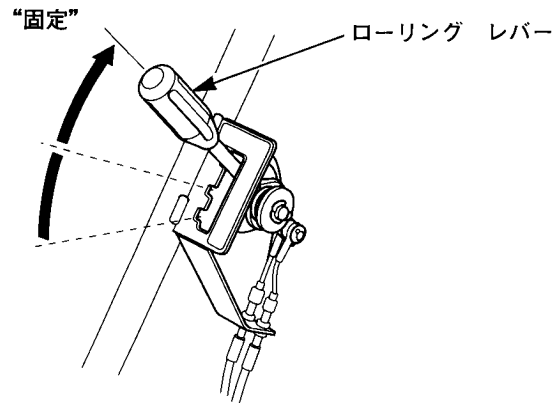
1．走行クラッチ レバーと刈刃クラッチ　レバーから手をはなします。
走行および刈刃の回転が停止します。



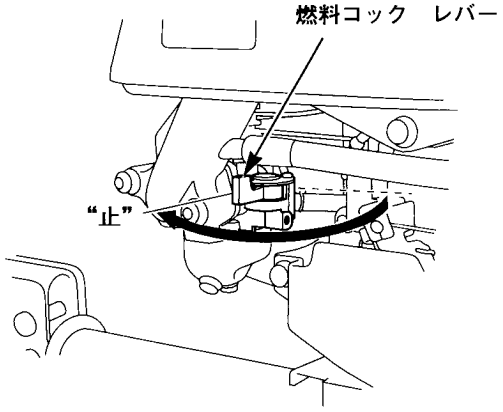
2．エンジン回転調整レバーを“STOP”（停止）にします。



3．ローリング　レバーを**“固定”**の位置にします。
このとき１面と２面のローリング　ストッパーが確実にセットされたことを確認してください。(33頁参照)



4．燃料コック　レバーを**“止”**にします。



定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHonda草刈機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検表

点検整備項目 ＼ 点検時期（3）		作業前点検	初回20時間運転時	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または200時間運転毎
エンジン　オイル	点検、補給	○				
	交換		○		○	
エア　クリーナ	点検	○				
	清掃			○（1）		
	交換					○
トランスミッション　オイル	点検					○（2）
(HST)	交換	1000時間運転毎（2）				
サイド　プロテクタ　ラバー リヤ　プロテクタ　ラバー	点検	○				
刈刃、刈刃ホルダ締付けボルト 刈刃の状態	点検	○				
本機まわり各部	点検、清掃	○				
配線、ワイヤ類	点検	○				
走行/刈刃クラッチ　レバーの作動	点検	○				
エンジンの作動	点検	○				
刈刃ベルト	点検、調整			○（2）		
ブレード　ホルダ内	点検、清掃			○（2）		
エンジン回転調整ケーブル	点検、調整				○（2）	
刈刃クラッチ　レバー	点検、調整		○（2）		○（2）	
刈刃クラッチ　ケーブル	点検、調整		○（2）		○（2）	
点火プラグ	点検、調整				○	
	交換					○
走行クラッチ　レバー　カム噛み合い	点検、調整				○（2）	
HST変速レバー　ケーブル	点検、調整		○（2）		○（2）	
ローリング　ロック　ケーブル	点検、調整		○（2）		○（2）	
アイドル　スピード	点検、調整					○（2）
吸入、排気弁すき間	点検、調整					○（2）
燃料室	清掃	250時間運転毎（2）（4）				
燃料タンク、フィルタ	清掃					○（2）
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）（2）				

（1）ホコリの多いところで使用した場合、エア　クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

（2）これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

（3）点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

（4）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告

点検整備は平坦な場所でローリング レバーを"固定"の位置にして必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップを取外して行ってください。

●エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

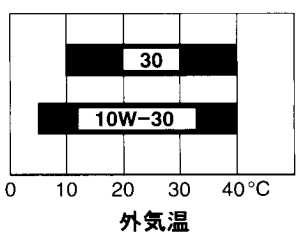
初回：20時間運転目、以後：6ヶ月毎または100時間運転毎。

《推奨オイル》（4サイクル ガソリン エンジン オイル）

Honda純正ウルトラU汎用 (SAE10W-30)

またはAPI分類SE級以上のSAEW-30オイルをご使用ください。

エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



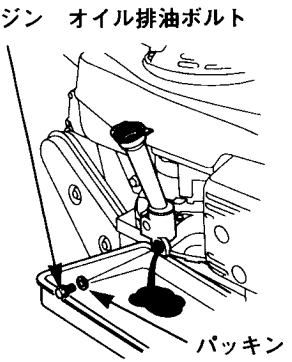
《規定量》0.65 ℓ

⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行なってください。やけどをするおそれがあります

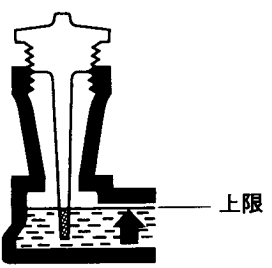
《交換のしかた》

1. オイル給油キャップを外します。



2．エンジン　オイル排油ボルトを外して、オイルを抜きます。完全に抜けたらエンジン　オイル排油ボルトを確実に締付けてください。このときパッキンは新しい部品に交換してください。

3. エンジン　オイルをオイル給油キャップのゲージ部で確認しながら、上限以内まで注入します。（21頁参照）



4．注入後、オイル給油キャップを手で確実に締付けます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。
- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

●エア　クリーナ（空気清浄器）の清掃・交換

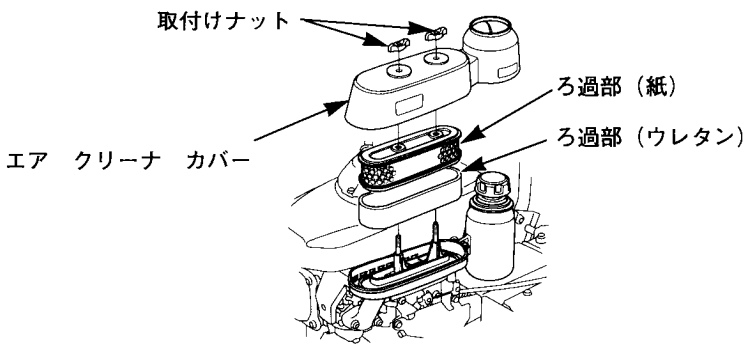
エア　クリーナが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなります。定期的に清掃しましょう。

⚠警告

エア　クリーナの清掃は、火気のある場所で行わないでください。洗い油は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。

《**清掃時期**》３ヶ月毎または50時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間運転毎
《**交換時期**》1年毎または200時間運転毎
《**清掃のしかた**》

1．取付けナットを外し、エア　クリーナ　カバーを外します。
2．ウレタンのろ過部は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、かたく絞ってください。
3．紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4．清掃後、各部品を組付け、取付けナットを確実に締付けてください。エア　クリーナ　カバーの接続部にすき間、ズレがないことを確認してください。



取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部を装着しなかったり、取付けかたが悪いと、ホコリなどが入り、エンジンに悪影響を与える原因になります。

●点火プラグの点検・調整・交換

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《点検・調整時期》

6ヶ月毎または100時間運転毎

《交換時期》

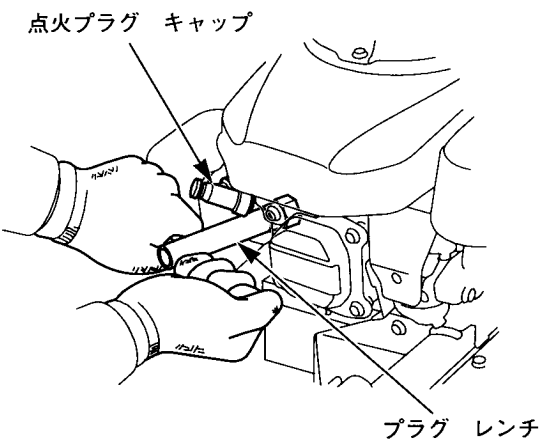
1年毎または200時間運転毎

《清掃のしかた》

1．点火プラグ　キャップを外します。

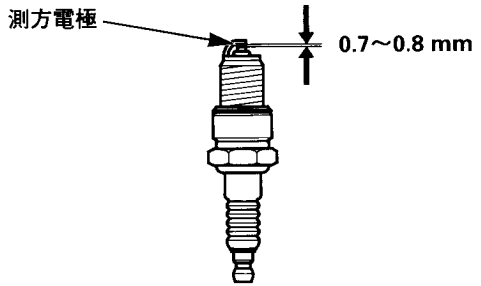
2．プラグ　レンチで点火プラグを外し、清掃します。

3．点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買い上げ販売店をご利用ください。
プラグ　クリーナが無いときはワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。



《調整》

4．側方電極をつめ、火花すき間を0.7～0.8 mmに調整します。



《標準プラグ》

BPR5ES (NGK)

W16EPR-U (DENSO)

5．点火プラグを取付けた後、点火プラグ　キャプを確実に差し込んでください。

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準プラグ以外、使用しないでください。点火プラグの取付けはネジ山を壊さないように指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締込んでください。
- 点検調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は次の手入れを行なってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内のガソリンを抜いてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ　キャップをプラグから取外します。

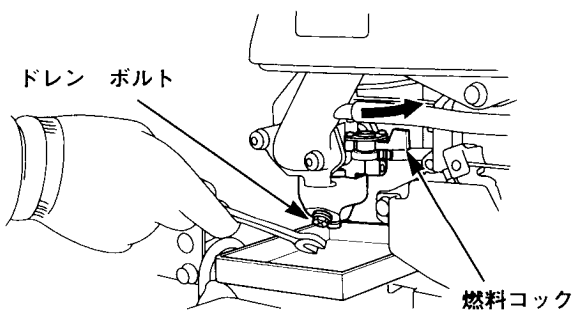
⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分に冷えてから行なってください。

1 燃料タンク、キャブレータ(気化器)内のガソリンを抜いてください。

《抜きかた》

1. 燃料給油キャップを取外し、タンク内のガソリンをポンプ等を使用して容器に受けてください。
2. キャブレータ内のガソリンは、燃料コック　レバーを**“出”**にしてドレン　ボルトをゆるめ、容器に受けてください。完全にガソリンが抜けたらドレン　ボルトを元の状態に戻し、燃料コック　レバーを、**“止”**にして、燃料給油キャップを確実に締付けてください。



取扱いのポイント

次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。

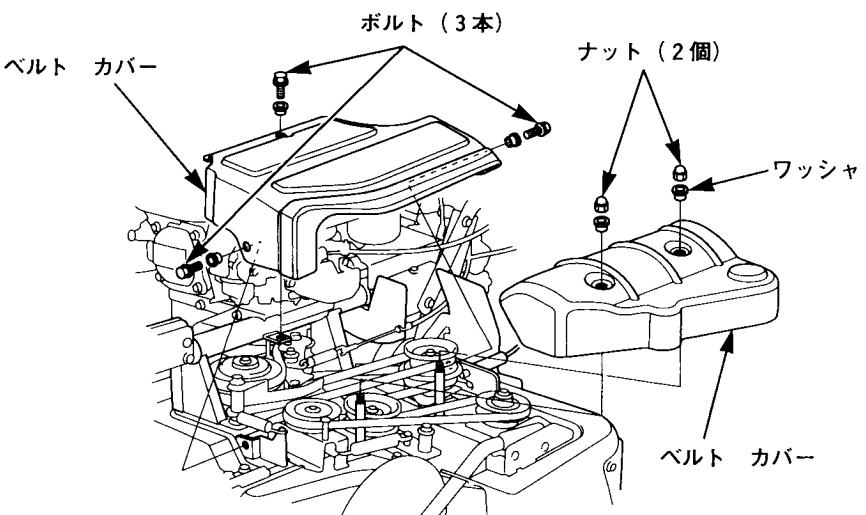
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して 死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを抜くときは
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

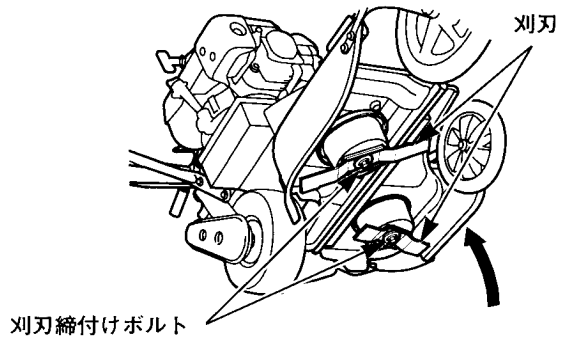
2 エア　クリーナ（空気清浄器）を清掃してください。(49頁参照)

3 ベルト　カバー内部を清掃してください。

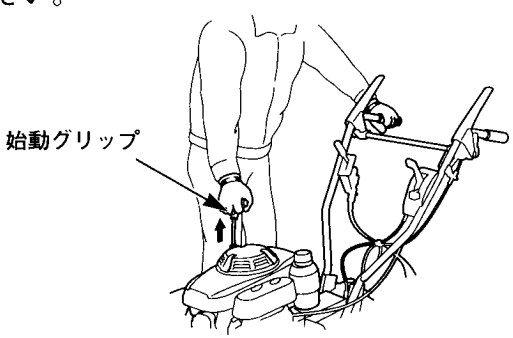
1．ベルト　カバーを外し、内部を清掃してください。
2．ベルトカバー内部を清掃した後、確実にベルト　カバーを取付けてください。



4 刈刃および各部を清掃し、締付け点検をしてください。
刈刃にエンジン オイルを塗布してください。
☆刈刃の点検は必ず二人で行ってください。(24頁参照)



5 片手でハンドルを支え始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



6 屋根のある場所に保管してください。

車への積み降ろしのしかた

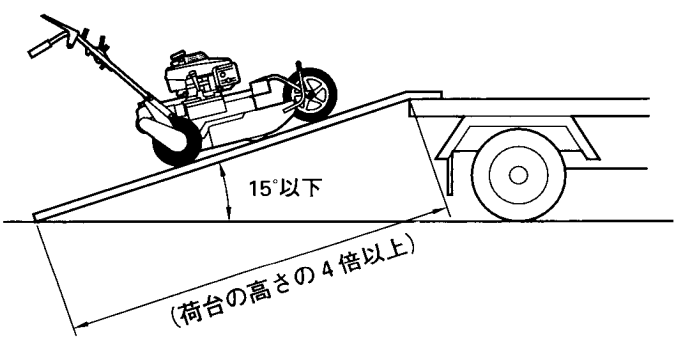
⚠警告

車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用し、ゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

1．運搬する車は本機が荷台からはみ出さない大きさの車を使用してください。
2．車は平坦な場所にエンジンを止めて駐車し、駐車ブレーキをかけ確実に動かないようにして、アユミ板を使い積み降ろししてください。
3．本機のエンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
4．使用するアユミ板は、全装備重量＋作業者の体重に耐えられる物で、滑りどめ、外れ防止フックがあり、タイヤ幅の1.5倍（約150 mm）以上の幅がある物を使用してください。

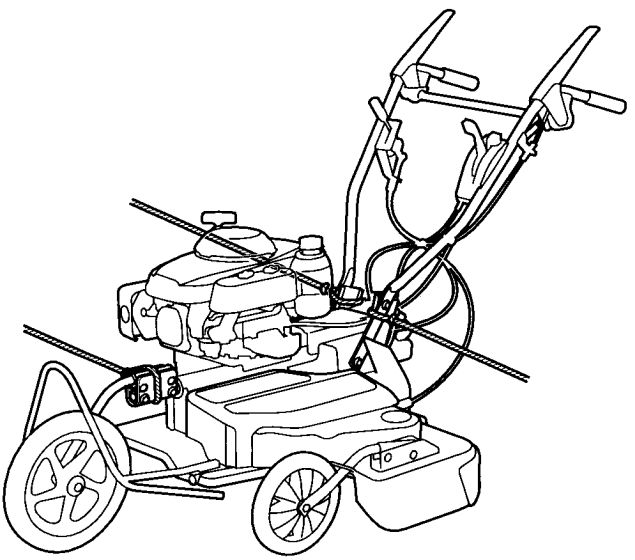
全装備重量：　63.0 kg

5．アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さの物を使用してください。（目安として荷台の高さの４倍以上の長さ。）



6．アユミ板は車に対し真直ぐ、しっかりとかけてください
7．アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。
8．ローリング　レバーを**“固定”**位置にし、ハンドルをしっかり保持し、低速でゆっくり行ってください。

9．積載後、本機のエンジンを止めてください。
10. 燃料タンクとキャブレータの燃料を抜いてください。(52頁参照)
11. 本機を荷台前方につき当て、図のようにハンドルとパイプにロープを掛けて本機を固定してください。
(本機が移動しない程度に軽くロープで固定してください。)



12. 本機を降ろす場合は、エンジンを始動しないでゆっくり行ってください。
その場合後ろ向きで降りるため、後方の安全を十分確認してください。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店へお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1．始動方法は取扱説明書通りですか？（28～30頁参照）
2．燃料はありますか？（19頁参照）
3．エンジン　オイルは規定量ありますか？（21頁参照）
4．点火プラグ　キャップは確実に取付けられていますか？（50頁参照）
5．点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（50頁参照）
・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確かめましょう。

主要諸元

名称（タイプ）	UM660 (J)・UM660 (JH)
型式	ホンダUM660

エンジン

名称	GXV160
形式	単気筒、4ストローク、OHV
排気量	163 cm^3
内径×行程	68.0×45.0 mm
点火時期	上死点前20°
点火方式	トランジスタ式マグネト点火
オイル容量	0.65 ℓ
燃料タンク容量	1.6 ℓ
点火プラグ	BPR5ES (NGK) W16EPR-U (DENSO)

フレーム

全長	1,635 mm
全幅	745 mm
全高	1,035 mm
刈幅	1面刈り：580 mm 2面刈り：330 mm、270 mm
刈取り高さ	30 mm、45 mm、60 mm（3段階）
全装備質量[重量]	63 kg
変速段数	無段変速
車速	0～0.85 m/s

※諸元は予告なく変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

HONDA

The Power of Dreams

30VF7605
00X30-VF7-6050

© 2015 本田技研工業株式会社